

充実した47日間に

<新しい年が始まりました>

新しい年が明けました。本年もよろしくお願ひいたします。

正月恒例の東京箱根間関東大学駅伝競争（箱根駅伝）、毎年視聴率も高く、ますます人気が出てきています。箱根を走るために関東の大学に進学する生徒も出てきているようです。今年は「やっぱり大作戦」を掲げた青山学院大学が新記録を出して優勝しました。今年の4年生では絶対勝てない、予選会すら危ない、そんな前評判だったそうですが、努力を積み重ね、昨年逃した優勝を手に入れました。強い選手が卒業して戦力が大きく落ちたそうですが、これまでの自分たちを振り返って自分たちの長所や短所を改めて自覚し、夏の合宿で一変したそうです。また、監督に言われたことをやっているのではなく、自分たちでまず考え、監督に「こうしたらどうかと思いますか」と提案する学生になっていると聞きます。さらに、大会に出場する選手だけでなく、メンバー全員で戦っているチームであるところも青山学院大学の特徴と言えるでしょう。こうした様々なことが、優勝という結果に結びついているのでしょうか。目標を立てる上でこれまでを振り返ることは大切で、必ず必要になることです。テレビには活躍している様子が映るので、これまでの苦しい練習や結果が出なくて苦しんでいる様子などを見ることがありません。私たちの想像をはるかに超えた練習や苦しきがあるのだろうと想像しています。

正月は様々なスポーツが放映されますが、それぞれに興味深く、そこからたくさんの元気をいただいています。今年一年も元気いっぱい充実した年にできるように気持ちを新たにしているところです。本年もよろしくお願ひいたします。



<47日の3学期>

1月8日の始業式では2名の代表児童がめあてを発表してくれました。

4年1組 代表児童 「2学期に頑張った算数の計算（かけ算）、マラソン大会、委員会活動での成長を生かして、3学期は何事もあきらめず頑張りたい、あいさつも頑張りたい」

4年2組 代表児童 「2学期には用水探検、マラソン大会（記録への挑戦）、図書委員会の活動であきらめずに来たので、3学期は集中力、友だちと仲良くすること学習の3つを頑張りたい」

今回の始業式で印象に残ったのは、2学期の自分を振り返りながら3学期の目標を立てていることでした。根拠を明確にして自分のめあてを打ち立てています。これまでの自分はどうだったのかを振り返って3学期を見通している姿を見て、頼もしくなりました。毎日の清掃後に反省会をしています。下校する前には帰りの会で一日の反省をします。委員会活動でも当番活動や行事等を振り返っています。いろいろところで振り返りをし、次に向かっていくのです。この時の振り返りがきちんとできていれば、めあてが明確になり、努力の原動力となるでしょう。実に理にかなっていると



思います。

3学期はわずかです。もうすでに1月も終わり、登校日も17日が終わって残り30日となりました。のんきになっているとあっというまに終わってしまう、それが3学期の特徴です。始業式の講話では、

- ①6年生が安心して卒業できるようにしよう
- ②周りの人たちに「ありがとう」の気持ちをもてるようにしよう
- ③4月から始まる新しい生活の用意をしていこう

の3つの話をしました。これまでの自分やクラスを振り返り、残りの日数を充実したもののできるよう日々過ごしてほしいと思います。



<相手意識の育ち>

本校は「笑顔かがやくいいづなっ子」という学校教育目標があります。また児童会では「笑顔いっぱい！みんなであるこう」というスローガンを決め出しています。「笑顔」をキーワードにして、「どうやったら相手を笑顔にできるか」「どうしたら笑顔で楽しんでもらえるか」ということをいつも話題にしています。この1年間で、運動会の表現活動（組体操、ダンスなど）、音楽会の合唱・合奏、お世話になった方をお呼びして行うお礼の会、姉妹学年との交流、来入児との交流、縦割り活動、児童会活動など、相手がいる活動はたくさんありました。それぞれの活動で、子どもたちは必ず相手を大切に思いながら、気持ちを伝えようとしながら活動してきています。

- ・「今日の歌で、わたしたちはお客さんに楽しく聞いてもらえたと思います。どうしてかというと、わたしたちが楽しくリズムよく歌っていたら、きっとお客さんも楽しくなると思うからです」
(3年)
- ・「リハーサルの時に、今までの歌と全然ちがってびっくりしました」(3年)
- ・「今日日本番でお客さんに楽しんでもらえるようにがんばったので楽しんでもらえているかなと思いました」(3年)
- ・「お礼の会は何のためにするんだろう」(5年)
- ・「初めて5年生の教室に来る方もいるから案内板を用意しよう」
(5年)
- ・「食べきれない人がいたらどうしよう。容器の準備、必要かな」
(5年)
- ・「お礼の会でお茶を出そうと決め、ポットを探したりお茶を入れる練習をしたりした」(5年)
- ・「『相手がある』ということは、これほど子どもたちの心にゆさぶりをかけるのだなと感じました」(職員)
- ・「『届けたい』という思いが歌声にあふれ、聞いていくれる相手が目の前にいることで『伝えたい』という思いが生まれ、表現する楽しさが増すのでしょうか」(職員)
- ・「全校の友だちや保護者の方々がお客さんとして集まってくれたことは、子どもたちにとって最高の学習の場だったと思います」
(職員)



子どもたちの姿から、私たち教職員も相手意識をもつことの大切さを学んでいます。この3学期も相手意識を大切に過ごしてまいります。そして、3学期の相手意識の最後を「卒業式」としたいと思います。